

19	安城	高棚小学校	イノウエ ワカナ 名前 井上 和奏
分科会番号	6	分科会名	生活科教育 ()

研究題目

友達や地域の人と主体的に関わり合いながら、学びを深める児童の育成
～「高棚のすてき はっけん」の実践を通して～

研究要項

1 主題設定の理由

本学級は、自分の素直な思いや考えを伝えることに積極的な児童が多く、どの教科の授業も活動に意欲的に楽しんで取り組む雰囲気がみられる。また、自分の考えを要約したり、付け加えたりしながら話すなど、友達や教師に伝えたいことを明確に表現できる児童もいる。一方で、自分なりの気づきを大切にしたり、自信をもって表現したりできない児童もいる。話すことが好きな児童も自分の考えを伝えるだけで終わってしまうため、友達の考えに興味をもち、比較や質問を通して、自分の考えをさらに広げたり、全体で深めたりしようとする姿は少ない。

そこで、観察や体験の場が多くある生活科の中で、自分の住んでいる町について調べることは、対象に興味関心をもち、自分で見つけた気づきを表現したい、友達の考えを知りたいと思えるのではないかと考えた。本単元では、「町探検」の活動を通して、自分を支えてくれている地域の人々に関わる体験の場を多く設定し、そこで見つけた「もの」「人・こと」について、友達と考えを交流する機会をもつ。地域の人々から仕事の内容や思いを直接聴くことで、地域への親しみや愛着を深められるだろう。そして、その思いを大切にしようとする気持ちや友達や家族、地域の人に知ってもらいたいという気持ちを学びの意欲に結び付けられることを願い、本主題を設定した。

2 研究の仮説と手立て

仮説1 単元・授業展開の工夫

地域の人とふれあう体験的な学習活動を取り入れた単元を構想し、教材との出会いを工夫したり、児童の気づきを生かした学習を展開したりすれば、自分なりの気づきを大切に、自信をもって他者に表現することができるだろう。

- 〈手立て1－①〉自分たちで見つけた高棚の町のすてきな「もの」「人・こと」を、視覚的に捉えることができるように、『すてき』はっけんマップを作る。
- 〈手立て1－②〉もっと知りたいという意欲を高めたり、様々な視点で『すてき』に気付いたりできるように、一つの施設を選択し、繰り返し体験を重ねる。
- 〈手立て1－③〉見つけた「もの」や話を聴いて分かった「人・こと」の『すてき』に気付いたことを自覚できるように、児童に観るポイントや質問を考えるとときの視点を与えたり、全体で考えたりしてから探検に行く。

仮説2 意見の交流をし合う聴き合い場の設定

町探検で見付けたり、話を聴いたりしたことを根拠に、他者の考えと比較したり、聴き合いを重ねたりする活動を繰り返し取り入れれば、多様な視点から気づきを関連付けて広めたり、学びを深めたりすることができるだろう。

〈手立て2－④〉 友達の考えと比較したり、認め合ったりして、自信をもって全体で発表できるように、ペアやトリオなど少人数で話し合う活動を繰り返し取り入れる。

〈手立て2－⑤〉 気づきの広がりや深まりを感じられるようにするために、自分なりの気づきや考え、意見の交流によって深まった学びの振り返りをワークシートに記入し、蓄積していく。

〈手立て2－⑥〉 いつでも学びを振り返り、友達や学級全体での意見を分かりやすく整理できるように、学びの足跡を掲示にまとめる。

3 抽出児

本実践研究の検証のために児童Aを抽出児童とした。Aは、学習に対して意欲的であり、自分の意見を書いたり、少人数での聴き合いの場で、友達と活発に話したりしている。しかし、自分の気づきに自信をもち、誰かに伝えようとすることや、自分の考えと比べて友達の意見を聴き、考えを広めたり深めたりすることができないときがある。そこで、本実践を通して、自分なりの気づきを大切にしたり、聴き合いの活動を通して自らの考えを深め、自信をもって表現したりする姿を引き出したいと願った。そして、聴き合いを通して気づきの質を高めたAの考えを学級全体に広め、学びが深まるようにしたい。

4 実践の内容

(1) 学区にある施設や人と出会う場の設定（手立て1－① 2－④⑤）

単元の導入で、高棚の町について知っていることを話し合った。児童は同じ通学班の子と思い出しながら、「家の近くに神社があるよ」「公園や工場がある」など、知っている施設をあげる一方で、何のお店か分からないところやまだ知らないところが多くあることに気が付いた児童も多くいた。そこで、町探検に出かけ、自分たちの住んでいる高棚の町について調べていくことにした。児童は「たかたなたんけんたい」となり、「みんなのお気に入りを見に行こう」「〇〇屋さんを見てみたい」など、探検の気持ちを高めた。

町探検では、実際に学区にある施設を見たことで、「いつも遊んでいる公園だ」「このお店は何だろう」など、自分たちが暮らす高棚町での思い出を振り返ったり、知らないお店に興味をもったりすることができた。その後、町探検で見付けたものを発表し、「『すてき』はっけんマップ」（資料1）に集める活動を行った。一人一人の気づきを学級で1つのマップに集めることで、発見したことをみんなに認められることのうれしさやクラスみんなで発見する楽しさを感じることができた。完成したマップを見て、「たくさんお

資料1 『すてき』はっけんマップ



店があってすごい」「たかたなは広いね」など、自分たちが住む町のよさを改めて感じる事ができた。そして、「中に入ったことがないお店を調べたい」「どんな人が働いているか話を聞いてみたい」と、自分が知らなかった場所について、もっと詳しく調べたいという意欲を高めた。高棚の町の施設をよく利用しているAは、自分の知らないお店があることに驚き、「初めて聞いた場所に行ってみたくなった」とお店への興味を示した。

(2)一つのお店に焦点を絞った話し合い（手立て1—② 2—④⑤）

一つのお店に絞って探検を重ねることで、お店に愛着をもち、気付きを広げたり深めたりすることができると考え、「兵藤呉服店」というお店の『すてき』を見付けていくことにした。「兵藤呉服店」は学用品も取り扱っており、児童の身近にあるお店であるため、自分たちとの関わりや高棚の町を大切にしている思いに気付かせることができ、探検先として適切であると考えた。

「兵藤呉服店」へ探検に出かける前に、お店について知っていることを集めた。はじめに、学級でアンケートを実施すると、多くの児童がお店を知っていることや、興味をもち、詳しく調べたいという意欲があることを確認でき、「お店に入ったことがある人はたくさんいるんだね」「詳しいことを知らない人がいるから、自分が知っていることを教えたい」などの感想をもった。Aは、「お店のことを知らない人に、自分が知っていることをたくさん伝えたい」と、全体発表への意欲を高めることができた。「お店の人が優しい」という意見に、「どういうところが優しいと思ったか」と問い返すと、Aは「商品について優しく教えてくれる」などお店の人を思い起こしながら振り返った。それを聞いた児童から「本当に優しい」「すてきな人だな」などのつぶやきがみられた。自分や周りの人が体験した働く人の思いや気遣いを『すてき』と自覚し、「人・こと」についても深めていきたいという意欲の高まりにつながった。

(3)お店の人の思いに基づく『すてき』を深める（手立て1—②③ 2—④⑤⑥）

1回目の「兵藤呉服店」への探検では、お店の人とふれあい、『すてき』を見つけた喜びや達成感を感じることができた。児童の見付けた『すてき』には、「体操服やシューズが売っていた」「お店の人が優しく教えてくれた」「子ども110番の家だった」などがあった。さらに、お店の人の話を聞いて、注文された服を作っていることや子どもから大人まで様々な人に必要な商品が売られていることを知った。

探検後には、見付けた『すてき』を学級全員で聴き合う「すてき会議①」の時間を設けた。全体発表の前にトリオで聴き合うことで、自分の気付きに自信をもち、友達の考えを知って認め合う中で、多くの意見や共感が生まれた（資料2）。Aは、「なるほど、いいね」と友達に認めてもらうことによって、自信をもって自分の考えを伝えることができるようになった。

「すてき会議①」では、児童の見付けた『すてき』に対して、「なぜ『すてき』だと思ったか」「何のためにやっているのか」と問い返しをした。児童は、「高棚のみんなのために商品を売っているから」「体操服を売っているのは、学校で必要なものだから」など、『すてき』だと思った理由を「人・こと」とつなげて考えることができた。しかし、振り返りでは、「色々な服が売っていた」「学校で必要なものがあ

った」など、「もの」に関する気付きが多く、「人・こと」については、まだ分からないことやもっと知りたいことがあることにも気付き、2回目の探検に向けての意欲を高めた。

2回目の探検に行く前に、より多くの『すてき』を知るための方法を考える場を設定した。自身

資料2 トリオでの聴き合い

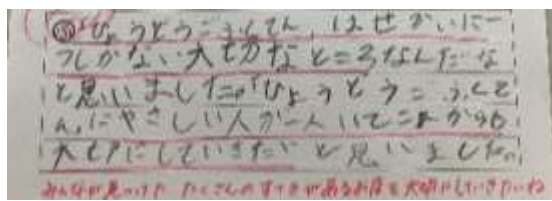


のワークシートや教室内に掲示した「学びの足跡」を見て、今まで見付けた『すてき』を振り返り、「2回目の探検は、1回目では分からなかったことを知りたい」「お店の人のことをもっと知りたい」という思いをもち、そのために「もっと詳しく観る」や「質問をする」といった意見が出た。

「どんなことを質問するとよいか」と問い返すと、Aは、「まだ分からないお店の人の思いについて質問したい」と答え、質問の内容を考える活動に広がっていった。全体発表では、「どんな気持ちで働いているのですか」「なぜ高棚の人のために服を作っているのですか」など、「人・こと」に触れた質問が多く出され、お店の人に親しみをもち、もっと調べたいという気持ちにつながった。質問や『すてき』を見付けるための視点を全体で共有することで、目的をもって探検に行き、そこで見付けた「もの」「人・こと」に関する気付きを自覚できるようにした。

2回目の探検では、お店の人の話を聴いたり、質問をしたりして「人・こと」に関する『すてき』を調べた。探検後の「すてき会議②」でも、トリオで『すてき』を聴き合う活動を行うことで、観る視点や考えが異なることに気付いたり、自分の考えを認められて自信につながったりする姿が見られた。その後の全体発表では、「みんなのために働いている」「疲れる時もあるけれど、お客さんの笑顔のために頑張っている」など、お店の人の思いに基づく『すてき』へと気付きを深めた。発言が「人・こと」に向けられた際に、意見をつなぐ問い返しをしたところ、Aは、「ぼくたちのために頑張っている兵藤呉服店は、世界に一つしかない大切な場所」と、自分たちとの関わりを学級全体に広めた。Aの発言や振り返りから、自分たちを含む高棚の町のみんなのために頑張っている「兵藤呉服店」の『すてき』を自覚し、大切に思うことができた(資料3)。そして、みんなの一番すてきだと思ふポイントを出し合い、それを共有した。そして、お店の人の思いや優しさをもっとたくさんの人に知ってほしいという気持ちが生まれ、次の活動への意欲を高めた。

資料3 親しみや愛着をもちはじめたAの振り返り



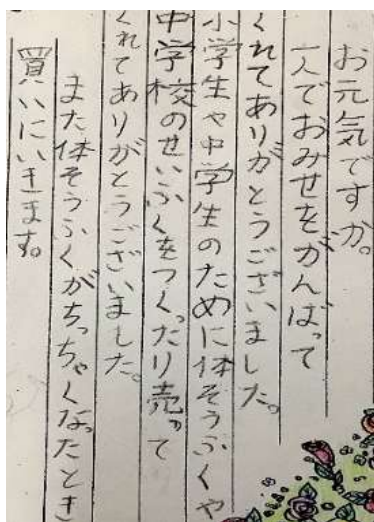
(4)『すてき』を伝える場の設定(手立て2—④⑤⑥)

「兵藤呉服店」で見付けた『すてき』を誰に伝えたいか問いかけると、高棚小学校のみんな、お家の人、地域の人などの意見が出た。そこで、まずはお家の人に『すてき』を伝えて感想を聴いたり、お家の人を知っていることをインタビューしたりした内容を学級全体で共有する「すてき会議③」を行った。児童は、お家の人から聴いた『すてき』と、自分たちが見付けた『すてき』を比較すると、共通した『すてき』が多くあることが分かり、探検でたくさんの『すてき』を見付けられたことを自覚できた。次に、高棚小学校のみんなに伝えたいという児童たちの思いから、全校児童にどのくらいお店のことについて知っているかアンケートを実施した。実態として、1年生は半数以上の児童がお店の存在を知らず、3～6年生も詳しいことやお店の人のことは知らないということが分かった。「どのように発表したら『すてき』が伝わるかな」と問いかけると、「たくさんの人に知ってほしいから本に書くといい」「お店の人の優しさが動きで伝えられるから劇がいい」などの意見が出た。そこで、発表方法の似ている児童で「動画」「新聞」「劇」「ポスター」「本」のグループに分け、発表の仕方について意見を出し合い、工夫しながら準備を進めた。グループ活動を始める時には、グループごとにめあてを立て、何の『すてき』を伝えたいか、どのように伝えようと聴き手に伝わるかを話し合い、全員で共有することができるよう支援した。たくさんの人に『すてき』を伝えることができるという理由で「新聞」を選んだAは、「1年生も読めるように振り仮名を書こう」と声を掛けたり、伝える『すてき』を「学びの足跡」やワークシートなどで振り返った

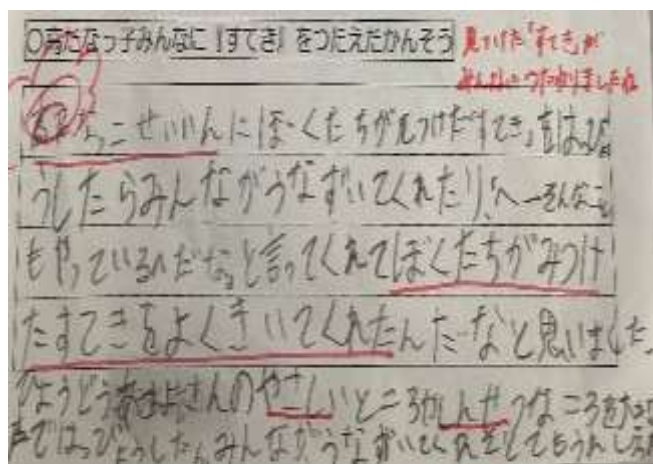
りする姿が見られた。また、国語科「町で見つけたことを話そう」の単元で学習したことを振り返り、作った新聞を見る人に分かりやすく伝わるようにするには、どのようなことに気を付けて話すとよいかを考えた。「始め」「中」「終わり」の組み立てで話すことやまとまりを明確にして話すとよいということを、生活科の発表でも意識できるように、全体でも確認をした。グループでの活動を通して、お互いを認め合って協力できたことを知り、達成感を味わったり、自分たちの見つけた『すてき』をみんなに伝えたいという思いが高まったりした。

見付けた『すてき』を学年で伝え合ったり、「高棚っ子集会」（児童集会）で発表したりする場を設定した。自分たちが見付けた『すてき』を同じ高棚の仲間である全校児童に伝えられたことに喜びを感じ、高棚の町をより大切に思う気持ちにつながった。また、お店の人にも自分たちが見付けた『すてき』や感謝の気持ちを伝えたいという思いから手紙を書いた（資料4）。振り返りでは、「お店の人の頑張りや優しさを伝えることができてうれしい」「みんなにお店の人の気持ちを知ってもらえてよかった」などの思いをもった。Aは「見付けた『すてき』をみんなが反応しながら聴いてくれた」と、自分の気付きを認められて、自信をもって表現できるようになったことを振り返った（資料5）。友達との聴き合いを通して、自分なりの気付きがあったことを自覚したり、多様な視点から学びを深めたりした。そして、お店の人の思いをたくさんの人に伝えたいという気持ちを持ち、高棚の町への愛着をさらに高めることができた。

資料4 お店の人に宛てた手紙



資料5 高棚っ子集会で『すてき』を伝えた
Aの振り返り



5 結果と考察

(1) 仮説1について

町探検で見付けたお店を「『すてき』はっけんマップ」に集めることで、自分の気付きに喜びを感じたり、学級全体で調べていく高棚の町についての興味関心を高めたりすることができた。また、いつでも振り返られるように掲示したので、自分たちの住む町にあるすてきな「もの」[人・こと]を視覚的に分かりやすく捉えることができた。完成したマップを見て、「高棚にはたくさんお店がある」「高棚ってすごい」など、児童の積極的な意見交流につながった（手立て1-①）。1つのお店に繰り返し足を運び、深く関わることで、お店に愛着をもち、気付きを広げたり深めたりすることができた。同じお店でも児童によって観る視点や興味は異なっていたため、一人一人の気付きを学級全体で大切にでき、聴き合いの活動をより活発化させることにつながった（手立て1-②）。

「すてき会議①」での聴き合いで生まれた疑問や質問について、少人数や全体で話し合ってから探検に行くことで、質問の質を高め、気付きを見付ける視点や意識を明確にもつことができた。その後、2回目の探検に行った児童の振り返りでは、「人・こと」に関する『すてき』が増え、「自分たちを含む高棚のみんなのために、お店の人が頑張っている」と、自分との関わりに結び付けて気付きをもつことができた（手立て1－③）。

以上のことから、仮説1は有効であったと考える。

(2) 仮説2について

全体発表の前に、少人数で聴き合う活動を繰り返し行うことで、多様な考えを知ったり、自分の気付きに自信をもったりすることができた（手立て2－④）。自分の考えや聴き合いを通して深めた学びをワークシートで蓄積し、見付けてきた『すてき』を振り返る時に活用したり、学びの蓄積を実感し、自分自身や友達の頑張りを認め合ったりすることができた。また、聴き合いの活動でも、ワークシートに書いた考えを見ながら話をしたり、友達の考えに共感したりするなど、活発な意見交流となった（手立て2－⑤）。また、前時の学習の振り返りや今までに見付けた『すてき』の確認、学級全体で取り組んできたことをいつでも実感できるように、学びの足跡を掲示した。思考の流れを視覚的に分かりやすく捉えたり、学びの足跡を見て、「この『すてき』をみんなに伝えたいな」「お店の人の『すてき』は高棚の町のために頑張っていることだね」と、友達や学級全体の気付きを自分の考えに生かしたりすることができた（手立て2－⑥）。

以上のことから、仮説2は有効であったと考える。

(3) 抽出児について

本実践に対して、Aは聴き合いを通して、友達に「なるほど」「Aさんの考えと似ているよ」など、自分の考えを認められ、全体発表の場では自信をもって発表することができた。そして、学級で『すてき』を出し合った後に、「ぼくたちのために頑張っている兵藤呉服店は、世界に一つしかない大切な場所」と、気付きの質が高い考えを学級全体に広めた。Aの考えから、他の児童もお店の人の思いに気付き、お店への愛着を深め、『すてき』を伝えていきたいという気持ちを高めることにつながった。1回目の探検後の振り返りは、「もの」に関する主観的な感想だけであったが、探検の回数や聴き合いの活動を重ね、「人・こと」に基づく『すてき』に気付くことができた。さらに、見付けた気付きを大切に、「兵藤呉服店は、高棚に一つしかない大切な場所」と、自分の考えを深め、たくさんの人に『すてき』を伝えたいという気持ちを強くもつことができた。

本実践を通して、たくさんの『すてき』な施設や人に気付き、自分も高棚の町の一員であることを実感したり、高棚の町への愛着を高めたりすることができた。

6 今後の課題

聴き合いの活動では、児童の意見に問い返しをして、全体での考えを深めることができるよう支援した。今後も児童のつぶやきや体験から考えを広げ、有効な発問や問い返しをして考えを深めることを大切に、効果的な支援を広げていきたい。

本実践では、国語科の「話す」「聞く」における教科横断的な学習を生かした発表をして、伝え方の工夫を考えた。今後は、その他の単元、教科でも各教科等の特性を生かしながら、それぞれの見方・考え方を絡み合わせ、より学びが深まるよう単元構想や授業展開を工夫していきたい。